

## 3日目突入 “脱デフレ期待” 相場

2012年11月19日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

16:02 現在

### <主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	9153.20 円	▲129.04 円
TOPIX	762.16 pt	▲10.82 pt
NYダウ	12,588.31 <sup>ドル</sup>	▲45.93 <sup>ドル</sup>
DAX (独)	6,950.53 <sup>ドル</sup>	▲92.89 <sup>ドル</sup>
FT100 (英)	5,605.59 pt	▲72.16 pt
CAC (仏)	3,341.52 pt	▲40.88 pt
上海総合※	2,003.95 pt	▲10.779 pt

### <外国為替>※

ドル円	81.30 円	▲0.02 円
ユーロ円	103.73 円	▲0.12 円
ドルユーロ	1.2759 <sup>ドル</sup>	▲0.002 <sup>ドル</sup>

### <長期金利>

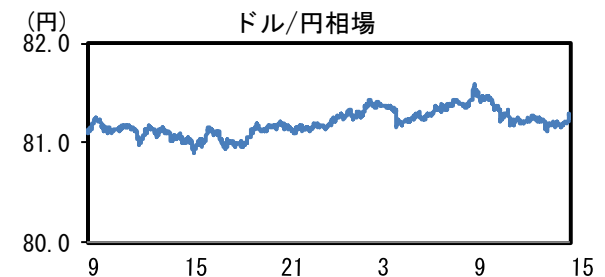
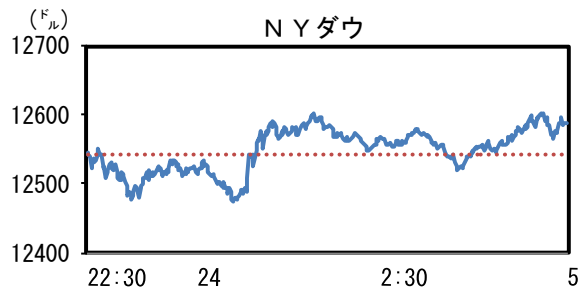
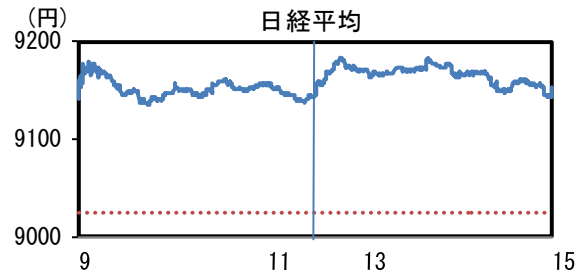
日本※	0.735 %	▲0.005 %
アメリカ	1.580 %	▲0.013 %
イギリス	1.732 %	▲0.001 %
ドイツ	1.331 %	▲0.007 %
フランス	2.073 %	▲0.008 %
イタリア	4.868 %	▲0.025 %
スペイン	5.872 %	▲0.029 %
オーストラリア	3.030 %	▲0.012 %

### <商品>

NY原油	85.59 <sup>ドル</sup>	▲0.14 <sup>ドル</sup>
NY金	1714.90 <sup>ドル</sup>	▲1.10 <sup>ドル</sup>

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



## 【海外株式市場】

16日の米国株式市場、NYダウ平均株価は5営業日ぶり反発。前日比+45.93<sup>ドル</sup>の12588.31<sup>ドル</sup>で取引を終了。米経済指標は市場予想より弱い内容となったものの、「財政の崖」を巡る不安心理がやや緩和されたことから買いが優勢となった。

オバマ大統領（民主党）とベイナー下院議長（共和党）らが共同で記者会見を開き、財政協議の内容が「建設的なものだった」と発言。大統領選後、実質的に初めて両党が歩み寄りの姿勢を見せたことが好感された。

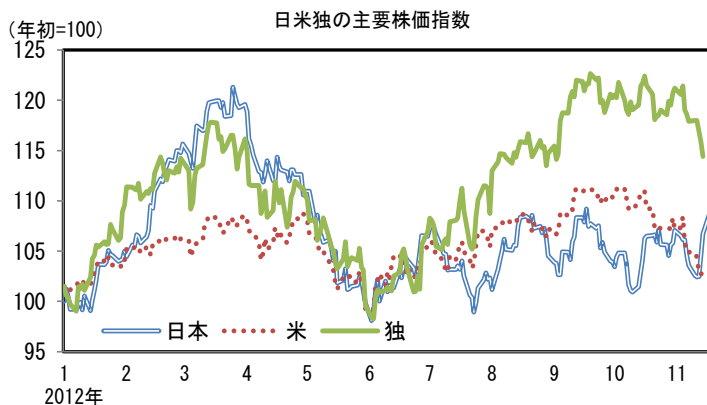
一方で、10月鉱工業生産指数は前月比▲0.4%と小幅改善を見込んでいた市場予想（同+0.2）に反して減少。ハリケーン「サンディ」の影響を含んでおり実態以上に低下していると考えられることから、次月以降のデータと併せてみる必要がある。もっとも、マーケットもこれを織り込んでおり反応は限定的。

## 【外国為替相場・債券市場】

16-19日の外国為替市場では、円がドルやユーロなどの主要通貨に対して売られる展開となった。安倍総裁が15日、デフレから脱却すべく日銀に無制限の金融緩和を求めると発言した事が引き続き材料視されている。週明けの日本時間で円安基調に一服感がみられたが、一方で円を積極的に買い戻す動きも乏しく、トレンドとしては円安基調を保っていると言える。一方で、ドル円相場に強い影響を与える米長期金利は依然として底這いを継続。大統領選後、“にわか”に浮上した「財政の崖」を巡る不透明感は依然として強く、安全資産としての米債需要は高止まりしている。

## 【国内株式市場】

19日の東京株式市場、日経平均株価は大幅に4日続伸。前日比+129.04円の9153.20円で取引を終了。前週末の米国株式市場が5営業日ぶりに反発に転じるなど、投資家の心理が改善に向かう中、円安基調の維持が好感され大幅高で寄付いた。前週後半からの急騰によって空売りを手仕舞う動き（所謂「売り方の買戻し」）もあり、日経平均株価は一時150円程度上昇する場面があった。午後にかけて為替の円安基調は一服となったものの、「持たざるリスク」も意識され、買いの勢いは衰えなかった。業種別では、石油・石炭製品、鉱業などの資源関連株が上昇率上位。鉄鋼、非鉄金属、電気機器、精密機器などの輸出関連株も総じて高い。尚、年初を100とした場合、日経平均のパフォーマンス（108.3）は、16日終値ベースのNYダウ平均（103.03）を5ptアウトパフォーマンスしている。



(備考) Bloombergにより作成。日本は日経平均、米はNYダウ、独はDAX指数。

## 【注目点】

前週から円安基調は、週明けの日本時間でも崩れていない。9月、10月に日銀は異例となる2ヶ月連続の追加緩和に踏み切ったが、その効果を上回る円高修正となっている。この円安基調の持続性が目下のテーマだが、日米2年債金利差から大幅に乖離した円安水準は若干の調整を迫られる可能性が高いだろう。もっとも、明日、白川日銀総裁が12月、1月に向けての追加緩和期待に含みを持たせる発言をすれば、この水準をキープできる可能性はあるが、2007年以降から続く日米金利差とドル円レートの相関が簡単に崩れるとは考え辛い。

一方で、市場参加者が「円安観測」を強めているのもまた事実であり、円買いポジションを手仕舞う動きも強いだろう。以上を纏めると、日米2年債金利差から導出される水準（78円台後半）まで円高が進むとは想定されないが、81円台のキープ（或いは一段の円安）には、米金利の上昇、すなわち日米金利差の拡大が必要条件となるだろう。



(備考) Bloombergにより作成。

## 【NYダウ・日経平均株価予想レンジ（5営業日以内）】

NYダウ 12350~12750<sup>ドル</sup>

日経平均株価 8900~9300円

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。